

平成29年度第2回松本市文化芸術振興審議会 次 第

日 時 平成30年3月26日 (月)
10時～11時30分
場 所 大手事務所3階会議室

1 開 会

2 会議事項

- (1) 松本市文化芸術振興基本方針に掲げる対象事業の平成29年度実施内容及び
評価等について

・・・・・・・・・・ P 1

- (2) 審議会における対象事業の重点項目・事業について

・・・・・・・・・・ P 5

- (3) その他

3 閉 会

松本市文化芸術振興基本方針に掲げる対象事業の
平成29年度実施内容及び評価等について

1 趣旨

松本市文化芸術振興基本方針における具体的施策を推進するため、対象事業ごとの実施状況を踏まえ、進捗状況の評価を取りまとめましたので、その結果について報告するものです。

2 経過

- 28. 10. 28 新基本方針を策定
- 29. 6. 29 平成29年度第1回文化芸術振興庁内連絡会議で対象事業の進行管理、評価基準について協議
- 7. 18 平成29年度第1回文化芸術振興審議会を対象事業の進行管理、評価基準及び審議会としての重点項目・事業について協議
- 30. 1. 30 対象事業所管課へ平成29年度の実施状況及び評価を依頼
- 3. 20 平成29年度第2回文化芸術振興庁内連絡会議で対象事業の実施内容及び評価について報告

3 評価の対象

松本市文化芸術振興基本方針(平成28年度～平成32年度)に掲げる対象事業(全75項目・事業)の平成29年度の実施結果(平成30年3月末見込)

4 評価の方法

対象事業所管課に評価シート(別紙1)及び一覧表を送付し、該当項目を記載依頼することにより、平成29年度の実施状況、評価を集約しました。

5 平成29年度の実施状況及び評価

(1) 実施状況集計一覧(※詳細は資料1のとおり)

基本方針の柱ごとの実施状況は以下のとおりです。

分野方針		合計	実施中「○」		検討中「△」		未着手「×」	
I	文化芸術振興施策の総合的な推進	21	14	66.7%	6	28.6%	1	4.8%
II	文化芸術活動の環境の整備及び充実	14	12	85.7%	2	14.3%	0	0%
III	文化芸術を担う人材の養成・確保	15	12	80.0%	1	6.7%	2	13.3%
IV	文化芸術の振興に関する連携・交流・活用等重要な事項	25	23	92.0%	1	4.0%	1	4.0%
計		75	61	81.3%	10	13.3%	4	5.3%

ア 平成29年度における対象事業・項目（75事業）の実施状況の結果は、「実施中」61事業（81.3%）、「検討中」10事業（13.3%）、「未着手」4事業（5.3%）となりました。

（参考）旧基本方針における対象項目の実施率は48.5%（272/561項目）

イ 平成29年度新規実施項目 7事業（No.20.No.21.No.27.No.28.No.29.No.43.No.60）

ウ 評価を踏まえて、事業ごとに課題及び今後の計画を整理しました。

(2) 評価状況集計一覧

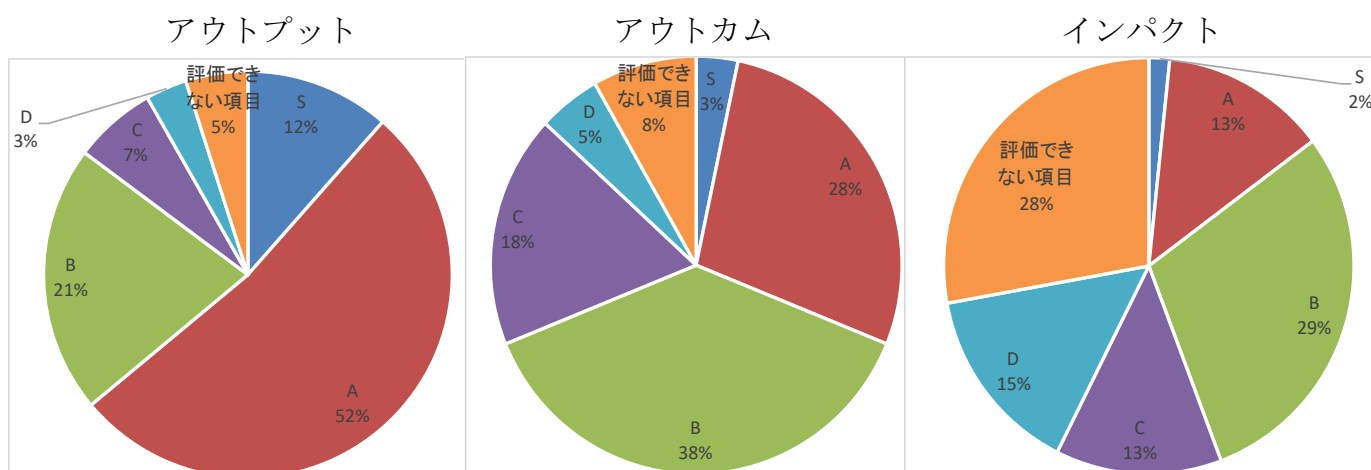
（評価の基準）

S	目標を上回る	A	達成	B	ほぼ目標どおり	C	目標を下回る	D	目標達成が困難
---	--------	---	----	---	---------	---	--------	---	---------

ア 対象事業の評価状況は以下のとおりです。（実施中の61事業）

評価基準	アウトプット(活動・結果)		アウトカム(成果)		インパクト(波及効果)	
S	7	11.5%	2	3.3%	1	1.6%
A	32	52.5%	17	27.9%	8	13.1%
B	13	21.3%	23	37.7%	18	29.5%
C	4	6.6%	11	18.0%	8	13.1%
D	4	3.3%	3	4.9%	9	14.8%
評価できない項目	3	4.9%	5	8.2%	17	27.9%
計	61	100.0%	61	100.0%	61	100.0%

（※詳細は資料2のとおり）



※評価できない項目：市民満足度調査等を指標としており、結果、数値が出ていないため現状は評価不可。

6 評価状況からみる結果と課題

- (1) アウトプット（活動・結果）における評価は、S、A、B合計で、85.3%と高い評価結果となりました。
- (2) 一方、アウトカム（成果）における評価は、S、A、B合計で、68.5%、インパクト（波及効果）では、評価できない項目が多いこともありますが、S、A、B合計で、44.2%でした。
- (3) アウトプット（活動・結果）においては、一定の評価結果がでていることから、基本方針の推進、市民の文化度を向上させるには、インパクト（波及効果）を更に意識して事業に取り組み、評価を上げていくことが必要です。

7 今後の進め方

- (1) 評価できない項目がある事業については、評価指標が確定次第、再評価を依頼し、集約後、審議会に報告します。
- (2) 検討中、未着手の事業については、計画期間内に取組みます。
- (3) 平成30年度に中間評価を、32年度に最終評価を実施します。

分野方針別

I 文化芸術振興施策の総合的な推進

評価基準	アウトプット(活動・結果)		アウトカム(成果)		インパクト(波及効果)	
	数	割合	数	割合	数	割合
S	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
A	11	78.6%	5	35.7%	3	21.4%
B	0	0.0%	5	35.7%	4	28.6%
C	1	7.1%	1	7.1%	1	7.1%
D	1	7.1%	1	7.1%	3	21.4%
評価できない項目	1	7.1%	2	14.3%	3	21.4%
計	14	100.0%	14	100.0%	14	100.0%

II 文化芸術活動の環境の整備・充実

評価基準	アウトプット(活動・結果)		アウトカム(成果)		インパクト(波及効果)	
	数	割合	数	割合	数	割合
S	1	8.3%	0	0.0%	0	0.0%
A	5	41.7%	1	8.3%	1	8.3%
B	3	25.0%	8	66.7%	1	8.3%
C	2	16.7%	3	25.0%	4	33.3%
D	1	8.3%	0	0.0%	2	16.7%
評価できない項目	0	0.0%	0	0.0%	4	33.3%
計	12	100.0%	12	100.0%	12	100.0%

III 文化芸術を担う人材の養成・確保

評価基準	アウトプット(活動・結果)		アウトカム(成果)		インパクト(波及効果)	
	数	割合	数	割合	数	割合
S	2	16.7%	0	0.0%	0	0.0%
A	6	50.0%	4	33.3%	1	8.3%
B	4	33.3%	4	33.3%	6	50.0%
C	0	0.0%	2	16.7%	0	0.0%
D	0	0.0%	2	16.7%	3	25.0%
評価できない項目	0	0.0%	0	0.0%	2	16.7%
計	12	100.0%	12	100.0%	12	100.0%

IV 文化芸術の振興に関する連携・交流・活用等重要な事項

評価基準	アウトプット(活動・結果)		アウトカム(成果)		インパクト(波及効果)	
	数	割合	数	割合	数	割合
S	4	17.4%	2	8.7%	1	4.3%
A	10	43.5%	7	30.4%	3	13.0%
B	6	26.1%	6	26.1%	7	30.4%
C	1	4.3%	5	21.7%	3	13.0%
D	0	0.0%	0	0.0%	1	4.3%
評価できない項目	2	8.7%	3	13.0%	8	34.8%
計	23	100.0%	23	100.0%	23	100.0%

審議会としての重点項目・事業について

1 経過

29. 1. 30 平成28年度第1回文化芸術振興審議会で施策の進行管理に係る審議会の関わり方について協議
 ➡ 審議会として重点項目・事業を選び施策に関与
29. 7. 18 平成29年度第1回文化芸術振興審議会で対象事業の進行管理、評価基準及び審議会としての重点項目・事業について協議
 ➡ 審議会としての重点項目・事業 8項目の決定

2 重点項目・事業について (詳細は資料1の網掛け部分参照)

No.	個別項目・事業名	戦略目標	選定理由等
20	アウトカム、インパクトを意識した評価基準の設定	文化政策の科学的な評価の仕組みをつくり、効果的に施策を進める。	基本方針全体の進行管理に係る項目
27	公共スペース等を活用した表現の場の仕組みづくり	鑑賞、表現者のモチベーションにつながる仕組みをつくり、文化芸術活動の浸透、文化芸術のもつ力・機能への注目を呼び起こす。	新規事業 「楽都・まつもとライブ」
37	学校サポート事業(部活動等、シニア層の市民力の活用を含む)	市民力を活用した学校サポート事業の展開	次世代を担う子どもたちの感性や創造性を育む重要性
39	ブックスタート事業	乳児期から本に親しむことで、表現する力をもつ子どもを育成する。	
40	未来の学都を支える子どもの育成事業	子どもを対象にした鑑賞教育を実施し、美術への関心を高め、感性を育む。	
42	指定無形民俗文化財の伝承事業の充実	支援することによって地域に残る伝統文化・芸能を後世に伝える。	合併した地区のお祭りなどの支援に視点を向ける必要性
43	アーティストバンクの整備及び活用	アーティストの活動実態をつかみ、人的ネットワークの形成、様々な事業での活用につなげる。	新規事業 「アーティストバンクまつもと」
70	単独学級講座事業(地域文化・伝統行事分野)の実施と発信方法の見直し	住民主体の公民館委員会で単独学級講座事業の見直し	世代間交流の重要性(各世代の市民が広く情報共有)

松本市文化芸術振興基本方針に基づく評価状況一覧表(H30.3.26審議会)

基本方針		誰もが多種多様な文化芸術に気軽に触れ、ワクワク・ドキドキが生きがいと新たなうねりにつながるまちづくり、人づくりを進めます。				〈評価の基準〉S:目標を上回る A:達成 B:ほぼ目標どおり C:目標を下回る D:目標達成困難												今後の展開		
						アウトプット(活動・結果)				アウトカム(成果)				インパクト(波及効果)						
分野方針	基本的施策	No.	個別項目・「事業名」	進捗	所管課	平成29年度の実施内容	実績値	指標	H29目標	H29実績	評価	指標	評価	理由	指標	評価	理由	課題	今後の計画	
1 文化芸術施策の総合的な推進	(1) 総合的な政策・方針の立案	1	市民意向調査の実施 「松本市市民満足度調査」	○	政策課 文化振興課	・若年層に選ばれるまち、住み続けたいまちの実現に向けた政策立案、政策ニーズ等の把握のための調査 ・文化芸術に関する質問項目の検討	調査時期 平成30年1月 現在調査中 ・対象者 松本市在住の18～39歳までの男女(2,400人) ・調査方法 無作為抽出によるアンケート郵送回答方式	調査標本数	2,400	2,400	A	市民意向の把握(支持度)	A	・今年度から新たに実施した、若年層に限った調査であるため、調査結果を各施策に生かし、経年での追跡が必要となる。	意見の反映度	A	・今回の調査結果を各事業への反映するよう活用をする。	・現在調査中のため、具体的な課題は不明	・第10次基本計画で実施している各分野の施策の進捗状況を把握することを目的とした、アンケート調査を実施予定(H30)	
		2	活動実態調査の実施、利用者アンケートの実施	△	文化振興課	・実施計画第48号「文化芸術振興の総合的な推進」で検討	・実計B 次年度以降検討	調査標本数					活動実態・市民意向の把握(支持度)			意見の反映度(見直し数/意見数)			・市民満足度調査で把握できない、文化芸術活動の調査が必要である。	・文化芸術活動に参加していない人を含む調査方法を検討し、中間評価に向けてアンケートを実施したい。
		3	文化芸術振興審議会による事業審議 「文化芸術振興審議会」	○	文化振興課	・新文化芸術振興基本方針を推進し、進行管理を行うため、審議会を開催し、専門的な立場から助言をいただくもの(任期:H29.6.3～H31.6.2)	・7月23日 第1回審議会を開催 ・3月26日 第2回審議会(予定)	開催回数	2	2	A	評価検証の状況(支持度)	評価できない	・対象事業の進行管理を取りまとめ、審議会にて一定の評価検証を行う予定。	意見の反映度(見直し数/意見数)	評価できない	・審議会開催後に評価	・新文化芸術振興基本方針の推進に向けた、具体的な関わり方。	・年度末に基本方針に掲げる対象事業の評価を取りまとめ、審議会に報告予定	
		4	文化芸術振興庁内連絡会議の開催 「文化芸術振興庁内連絡会議」	○	文化振興課	・新文化芸術振興基本方針に基づき、施策の具体的な事業に関する総合的な推進を図るため、庁内連絡会議を開催し、各所管課における取組方針、評価基準等を明確にした。	・6月29日 第1回庁内連絡会議開催 ・3月20日 第2回庁内連絡会議開催(予定)	開催回数	2	2	A	評価検証の状況(支持度)	B	・各所管課における取組方針、評価、進捗状況等を庁内連絡会議に報告	行政評価、実施計画等での浸透度	C	・行政評価、実施計画への浸透が図られていない。	・PDCAサイクルが確立していない。	・庁内連絡会議を開催し、基本方針に係る今年度の対象事業の進行管理、評価について報告、PDCAサイクルを確立させる。	
	(2) 協働・創造発信型事業、総合的な文化芸術振興施策の推進	(2) 協働・創造発信型事業、総合的な文化芸術振興施策の推進	5	セイジ・オザワ 松本フェスティバル及び関連事業 「セイジ・オザワ 松本フェスティバル」	○	国際音楽祭推進課	・「楽都」を標榜する本市にとつての本格的な実践活動として「サイトウ・キネン・オーケストラ」(総監督・小澤征爾)を主体とした「セイジ・オザワ 松本フェスティバル」への共催、支援協力を行うとともに、独自の関連事業を展開し、音楽文化の発展と地域の振興を図るもの	・オーケストラコンサート3プログラム6公演、OMFオペラ1公演、室内楽等4公演 合計11公演 鑑賞者数15,202人 ・その他教育プログラム、関連事業を含む総鑑賞者数85,524人	集客数	85,399	85,524	A	参加者の満足度	B	・2017年に実施した来場者アンケートでは、公演内容(全公演)について、満足・やや満足と回答した人の割合は96%、OMFはなくてはならない音楽祭であると思う・やや思うと回答した人の割合は96%など、いずれも高い評価を得ることができた。	社会的効果への寄与度	B	・小澤征爾総監督の下、サイトウ・キネン・オーケストラによる世界最高水準の音楽祭を開催するとともに、次世代若手音楽家の育成、義務教育世代への音楽情操教育を積極的に支援している。	・小澤総監督が指揮する公演に注目が集まりがちなため、オーケストラの音楽性や演奏者の純粋な魅力を発信する必要がある。	・2018OMF(平成30.8.18～9.7)オーケストラコンサート(A、B、Cプログラム、)OMFオペラ 他を開催予定
			6	信州・まつもと大歌舞伎及び関連事業 「信州・まつもと大歌舞伎」	○	文化振興課	・松本市の文化醸成及び市民の文化芸術活動への参加・協力する機会を増やし、文化芸術を切り口にしたまちづくりへつなげるために、平成30年度の公演及び関連事業の実施へ向け、市民との協働により企画運営を進める。	・第1回実行委員会の開催 ・第1回市民活動委員会の開催	集客数(公演、関連イベント)	隔年開催	隔年開催	評価できない	評価できない	アンケート「日本文化(歌舞伎)に対する関心が高まったか」の割合	・平成28年度実施の本事業アンケートでは、97.5%の方が「そう思う、ややそう思う」と評価	アンケート「文化芸術活動が盛んに行われているまちか」の割合	・平成28年度実施の本事業アンケートでは、94.3%の方が「そう思う、ややそう思う」と評価	・コクーン歌舞伎の一環として本公演を開催するだけでなく、市民活動委員会(各WG)において、協働により関連事業を実施することで、松本らしい「信州まつもと大歌舞伎」の実施へつなげる。そのために、今後WGにおける企画・調整や、WG間における連携等をさらに推進する必要がある。	・実行委員会及び市民活動委員会の開催 ・市民活動委員会の取組み推進(関連公演、学びの事業、宿泊誘客、市民イベント、物品販売、WEB広報、まちなにぎわい創出、レセプション)	
			7	「工芸の五月・クラフトフェアまつもと」	○	商工課	・松本市関連施設による工芸の五月関連企画(松本市美術館ほか4施設) ・工芸の五月企画室企画(5イベント) ・回遊性向上事業(ミニクラフト展(大手門樹形広場、87ブース)、まちなか回遊バス、無料マップ配布) ・市制施行110周年を記念し、実行委員会によるワークショップの開催(6回)	・毎年4月29日から5月31日までの1か月間を「工芸の五月」と位置づけ、工芸に関する企画展開催のほか、メインイベントである「クラフトフェアまつもと」を通じて、「工芸のまち」としてまちの魅力を高め、地域の活性化を図るもの	集客数		46,331	A	参加者の満足度	A	・クラフトフェア開催期間中、あがたの森公園のほか、中心市街地で商店街等が実施する多彩なイベントが定着してきており、歩いてまちなかを回遊する来街者が多くみられた。	松本のイメージの向上(支持率)	A	・様々なメディアで取り上げられ、多くのリピーターが訪れた。 ・ホームページのスマートフォン対応化、メディア掲載(全国メディア、地元メディア)	・交通対策(平成30年度は、イオンモール松本開店後、初開催) ・実行委員会内の主体性を持った連携 ・外国語標記による情報発信	・工芸の五月(クラフトフェア)の開催(継続) ・交通対策について、庁内関係課、関係機関との連携
			8	「創造・発信型事業」(まつもと市民芸術館)	○	文化振興課	・まつもと市民芸術館の指定管理者である(一財)松本市芸術文化振興財団が実施する創造・発信型事業等自主事業に対し、市が補助金を交付し、松本市から全国に向けて新しい芸術文化作品を発信するもの。	・創造・発信型事業 5作品(或いは、テネシーワルツ)(ユビユワークショップ)(空中キャバレー2017)(シアターキャンプ)(白い病室)	集客数	6,240	6,240	A	参加者の満足度	A	・鑑賞者に対するアンケート結果から、公演内容が好評で参加者の満足度が高いと判断	事業に対する市民の認識度	B	・予定通りの集客数と考えるが、市民の認識度を高めていく必要がある。	・広報を充実させ、集客力を上げる。	・財団と連携を取りながら、創造・発信型事業を多角的に推進する。 ・H29年度の集客実績値は、事業がすべて完了していないため、目標値と同数を記載。
			9	官民協働による創造的な事業の検討 「まつもと街なか大道芸」	○	文化振興課	・文化芸術振興と街なかの賑わいを創出するために、商店街や市民ボランティア等の参画により、第5回まつもと街なか大道芸を開催する。	・企画委員会に新たなメンバーが参画し、ワークショップ(魔法のメガネをつくらう、マステDEチェック)、ローカルパフォーマンスステージ(アマチュア)、楽都まつもとライブ、前夜祭、三の丸ちゃんばら等の新企画、当日の大道芸実施個所の増設(喫茶山雅)、松本山雅ホームゲームでの周知などの新たな取組みを通じて、松本らしい大道芸開催へつなげた。	新企画参加者数	1,500	1,606	A	イベント全体の参加者数	A	・新企画の実施を通じてイベント全体の盛り上がりへつなげ、事業を通じて地域振興を図る(目標値57,000人に対し、58,800人が参加)。	市民満足度調査「松本の魅力が発信されているか」平均点	評価できない	※平成28年度の市民満足度調査結果:56.4%(60%目標値として設定)	・第5回実施内容をベースに、新たな取組みの企画・運営や既存内容の見直しを行い、全体のブラッシュアップを図る。	
			10	文化芸術情報ポータルサイトの整備	△	文化振興課	・実施計画第48号「文化芸術振興の総合的な推進」で検討 ・文化庁が運営する「文化情報プラットフォーム」へ登録の検討	・実計B 次年度以降検討	アクセス数、情報数						注目度、話題性		松本のイメージの向上(支持率)		・文化芸術施設(芸術館、美術館、音楽文化ホール、波田文化センター等)が財団として個々にホームページを管理運営しており、市のホームページとはなじみにくい。	・広報課と協議のうえ、どうしたら市公式ホームページと違和感なく融合させることができるのかを引き続き検討する。
			11	市民向けの情報発信方法の研究	△	文化振興課等	・実施計画第48号「文化芸術振興の総合的な推進」で検討	・実計B 次年度以降検討	アクセス数、情報数						注目度、話題性		市民参加の伸び率		・文化芸術施設の指定管理者が実施している情報発信の手段と、市としての独自の発信方法の切り分けをどうするか	・広報課、指定管理者と検討を進める
			12	SNSの活用(映像媒体の活用を含む。)	×	文化振興課等			アクセス数						いいね!の数		来場者数の伸び率		・市の公式ホームページ、Twitterはセキュリティ上の問題で利用制限をかけている ・YouTubeなどの利用を行っていないため、映像配信はできない ・技術的に配信が可能になっても、情報発信者の権限や公開手順の整備が必要	・各課のSNS活用(広報課を除く)の必要性を検討 ・広報課、情報政策課との協議 ・情報コンテンツの作成と公開権限の整備が必要

松本市文化芸術振興基本方針に基づく評価状況一覧表(H30.3.26審議会)

基本方針		誰もが多種多様な文化芸術に気軽に触れ、ワクワク・ドキドキが生きがいと新たなうねりにつながるまちづくり、人づくりを進めます。				〈評価の基準〉S:目標を上回る A:達成 B:ほぼ目標どおり C:目標を下回る D:目標達成困難										今後の展開								
分野方針	基本的施策	No.	個別項目・「事業名」	進捗	所管課	平成29年度の実施内容	実績値	アウトプット(活動・結果)			アウトカム(成果)			インパクト(波及効果)			課題	今後の計画						
								実施の効果を客観的に確認できる定量的指標	指標	H29目標	H29実績	評価	指標	評価	理由	指標			評価	理由				
(4) 関係機関等のネットワーク化、連携	基本的施策	13	活動情報、各種活動支援情報等の集約	△	文化振興課地域づくり課	・実施計画第48号「文化芸術振興の総合的な推進」で検討 ・地域づくり課では該当事業・項目なし(市民活動サポートセンター事業との連携検討)	・アーティストバンクまつもとの登録者情報のデータベース化	紹介件数						市民の情報集約に関する認識度			市民の文化芸術に対する認識度	市民の文化芸術に対する認識度	理由	理由	・文化芸術活動団体や個人の情報を把握していない ・国・県・市・民間等の各種助成制度の情報を集約できていない	・情報提供先のリスト化(芸文協、アーティストバンク等) ・国・県・市・民間等の補助事業の情報収集 ・情報発信の方法検討		
		14	相談窓口の整備・調整	△	文化振興課地域づくり課	・実施計画第48号「文化芸術振興の総合的な推進」で検討 ・地域づくり課では該当事業・項目なし(市民活動サポートセンター事業との連携検討)	・実計B 次年度以降検討	紹介件数						市民の相談窓口に対する認識度			市民の文化芸術に対する認識度	市民の文化芸術に対する認識度	理由	理由	・芸文協の担当課、OMF担当課など文化芸術に関するイベントごとに担当課が分かれており、市民にとって窓口が分かりにくい	・担当課との調整(H30～) ・相談窓口開設(H31～)		
		15	市内文化施設間ネットワークの構築	○	文化振興課	・松本市内の芸術文化施設の指定管理を受けている(一財)松本市芸術文化振興財団内における施設間の情報共有	・芸文財団指定管理施設担当係長会議開催 ・芸文財団内の職員交流(異動も含めた)に向けた検討	連携事業数	1	0	D	集客の伸び率	D			市民の文化芸術に対する認識度	D			・連携体制や、情報共有に向けた体制づくりの段階であり、具体的な取組みを実施できていないため。	・芸文財団指定管理施設間でのイベント調整の実施方法の検討が必要 ・芸文財団が指定管理を受けていない施設との情報共有、連携について	・キッセイ文化ホールでの事業、OMF公演も含めた、イベントカレンダーでの文化芸術イベントの情報提供 ・連携事業の企画		
		16	文化芸術活動団体連絡会議の開催	△	文化振興課	・実施計画第48号「文化芸術振興の総合的な推進」で検討	・実計B 次年度以降検討 ・H30年度に(仮)文化芸術振興フォーラムを開催予定	参加団体数							連携・交流数			市民の文化芸術に対する認識度				・市内の文化施設や文化芸術団体等のネットワークがほとんどない。	・ジャンル、拠点施設を超えて文化芸術団体の代表者が集まる機会及び、フォーラム等の開催を検討する。	
		17	大学等との共同研究・共同事業 「信州大学・松本市連携協議会」	○	政策課	・信州大学・松本市連携協議会の開催	・平成29年5月18日(木)に、松本市役所にて開催。連携事業の状況報告及び連携事業のプレゼンテーション等を実施	開催回数	1	1	A	新たなネットワークの形成	A			松本のイメージの向上(支持率)	B			・協議会の開催により、連携の課題等を共有することができた。	・松本のイメージの向上(支持率)	・連携事業の成果を広く周知する必要がある。	・特になし ・平成30年度は、信州大学で実施予定	
		18	文化施設間広域連携(長野市芸術館、上田市交流文化芸術センターとの連携)	○	文化振興課	・長野県文化振興事業団に置く「芸術監督団」と連携し、県内の文化創造活動を活性化し、長野県の文化事業全体の底上げを図る。 ・まつもと市民芸術館の指定管理者である(一財)松本市芸術文化振興財団が雇用する市民芸術館芸術監督串田和美氏が、その芸術監督団の一員となっている。	・まつもと市民芸術館自主事業である「或いは、テネシーワルツ」を県事業団が県内文化施設で上演	連携事業数	1	1	A	集客の伸び率	B			長野県のイメージの向上(支持率)	B			・長野県芸術監督団は平成27年度から取り組みをスタートして3年目 ・県文化振興事業団が実施する文化プログラムにおける集客数が不明	・他文化施設の自主事業公演を市民芸術館で上演するために、県事業団・市財団との連携調整が必要	・県事業団・市財団との連絡調整 ・平成30年度目標値は、県事業団による連携上演事業数であるため、現時点では未定(H29と同数計上)		
	19	文化施設間広域連携 「松本藩領ミュージアム」	○	博物館	・旧松本藩領をエリアとする中信地区の公立博物館施設が提携して、古代から現代に至るまでの共通する文化や伝統を学ぼうとするもの。	・3月11日に塩尻市・安曇野市の学芸員を迎えて、江戸時代の松本平の生活を書き残した菅江真澄についての講演会・座談会を実施する。	連携事業数	2	1	C	集客の伸び率	C			他自治体による連携企画の開催数(伸び率)	A			・松本藩という共通項を足掛かりに、中信地方の歴史・文化についてアピールしたが、集客に与える影響は企画への参加者数分にとどまった。	・安曇野市主催で、美術館博物館職員等研修会が実施された。	・他博物館との連携・交流が十分でない。	・複数地域の博物館が参加するイベントの開催、共通テーマでの企画展の開催等をめざす。		
	(5) 評価基準の設定と評価、進行管理等	20	アウトカム、インパクトを意識した評価基準の設定	○	文化振興課	・新基本方針に掲げる対象事業(75事業)の、各所管課における取組方針、評価基準等を庁内連絡会議に諮り明確にした。	・新基本方針に掲げる進行管理対象事業:75事業	評価基準の設定状況	75	75	A	効果的な施策の実施	B			中長期的な効果を図る評価指標の浸透	D			・定性を判断する科学的な評価手法については確立されていない。	・文化芸術の評価は、効果・成果が測定しにくく、確立した手法がない。 ・全庁的な基本方針への理解が不足している。	・年度末までに、庁内連絡会議を開催し、基本方針に係る今年度の対象事業の進行管理、評価について報告する。また、次年度に向け、アウトカム、インパクトを意識した評価を実施する。		
		21	文化芸術分野におけるPDCAサイクル確立による進行管理	○	文化振興課	・新基本方針に掲げる対象事業(75事業)の、各所管課における取組方針、評価基準等を庁内連絡会議に諮り明確にした。	・新基本方針に掲げる進行管理対象事業:75事業	進行管理の実施	75	75	A	妥当な評価検証の獲得	B			評価検証に基づく改善度	D			・今年度が初めての評価になるため、改善度までの検証は行われていない。	・文化芸術の評価は、効果・成果が測定しにくく、確立した手法がない。 ・全庁的な基本方針への理解が不足している。	・対象事業の適切な進行管理を行い、年度内にPDCAサイクルによる評価(試行)を実施する。		
	2 文化芸術活動の環境の整備・充実	(1) 活動環境の整備(拠点、機能充実・整備)	22	利用しやすい施設等の環境整備 「公民館利用者懇談会の開催」	○	生涯学習課	・定期的に利用者懇談会を開催し、利用者(社会教育活動団体)へ公民館利用にあたっての留意事項の説明をするとともに、利用者からの要望を聞き意見交換をする。	・公民館36館で35回の利用者懇談会を開催	利用者懇談会の開催数	36	35	B	利用者の伸び率	B			市民満足度調査	評価できない			・わずかに利用者数に減少が見られるが、ほぼ現状維持 ・伸び率99.4%	※H29市民満足度調査結果が出ないため、2月末現在評価不能	・館によって開催回数が異なる(0~4回) ・公民館36館のうち貸館を行っているのは34館で、利用者懇談会を開催していない館は13館(開催率は62%)	・全館で開催
			23	活動情報の発信・オープン化 「学びの森インフォメーション」の発行他	○	生涯学習課	・生涯学習情報誌「学びの森インフォメーション」の発行や市公式ホームページ、広報まつもと、各地区公民館だより等により、公民館で活動しているサークル及び団体の紹介や、文化祭や音楽会など活動発表の場を設けるもの。	・各地区公民館における文化祭、音楽会、展示会などの開催 ・生涯学習情報誌「学びの森インフォメーション」の発行(年4回) ・「学びの森生涯学習ファイル」の市公式HPへの掲載、広報まつもと、各地区公民館だより等への掲載	文化祭等の実施数	60	65	A	参加者の伸び率	B			市民満足度調査	評価できない			・公民館の利用団体、サークルの会員等の高齢化により、出演・出演団体が減少傾向にあり、それに伴って参加者数も減少傾向にある。 ・若い世代への情報発信が必要。 ・伸び率97.5%	※H29市民満足度調査結果が出ないため、2月末現在評価不能	・若い世代の参画	・市公式ホームページの更なる活用(各地区公民館だよりの掲載等)
			24	各世代に応じた参加へのきっかけの提供 「日本語ボランティアきっかけ講座等各種公民館講座の開催」	○	生涯学習課	・生活課題や趣味・教養等について学ぶ各種講座や催しを開催し、サークル活動や仲間づくりを進める中で、文化芸術活動も含めた市民活動の推進を図るもの。	・広報まつもと及び市公式HPに掲載し講座の周知を実施 ・各地区公民館だより等で周知 ・H29年度講座参加者総数:33,606人	全講座数	800	823	A	参加者の伸び率	B			市民満足度調査	評価できない			・参加者は、ほぼ横ばいだが、近年減少傾向が続いている。 ・伸び率96.0%	※H29市民満足度調査結果が出ないため、2月末現在評価不能	・住民の学習ニーズの把握	・公民館運営委員会など、住民の声を聴く場を大切に、住民の学習ニーズの把握に努める
			25	施設の性格付けの再検討	○	文化振興課	・利用状況等に大きな課題を抱える文化施設について、庁内、庁外関係者とも協議しながら、施設の廃止も踏まえ、今後のあり方を検討する。 ・あり方検討とは別に、施設の利用率向上のための施策を検討・実行する。	・文化振興課内で今後のあり方及び利用率向上施策を検討中 ・施設の運営責任者(指定管理者)と意見交換	施設数	1	0	C	目的・実態等にあった施設への転換	B			活動環境に係る市民の認識度	C			・施設の現状、課題について、市民への周知、意見交換等の場を設けていないため。	・庁内、庁外関係者と課題の共有ができていない ・施設の管理運営者(指定管理者)と設置者(市)の間で、現状に対する温度差がある	・平成29年度中に庁内関係者及び施設の管理運営者との間で課題の共有をする ・平成30年度中に庁外関係者との意見交換の場を持つ	
			26	相応しい事業実施・施設管理運営方法の研究	△	文化振興課	・文化施設の管理、運営方法について、集約した現状と課題を基に、庁内外関係者により住民自治、文化芸術の振興推進のための管理運営方針を研究する。	・特になし	検証数								活動環境に係る市民の認識度				効果的な手法の発見		・文化施設の現状と課題を確認(集約)していない	・文化振興課内で、施設の現状と課題を確認する

松本市文化芸術振興基本方針に基づく評価状況一覧表(H30.3.26審議会)

基本方針		誰もが多種多様な文化芸術に気軽に触れ、ワクワク・ドキドキが生きがいと新たなうねりにつながるまちづくり、人づくりを進めます。				〈評価の基準〉S:目標を上回る A:達成 B:ほぼ目標どおり C:目標を下回る D:目標達成困難														
分野方針	基本的施策	No.	個別項目・「事業名」	進捗	所管課	平成29年度の実施内容	実績値	アウトプット(活動・結果)			アウトカム(成果)			インパクト(波及効果)			今後の展開			
								指標	H29目標	H29実績	評価	指標	評価	理由	指標	評価	理由	課題	今後の計画	
(2) 活動機会の提供・充実(発表、鑑賞機会)		27	公共スペース等を活用した表現の場の仕組みづくり「楽都・まつもとライブ」	○	国際音楽祭推進課	・セイジ・オザワ 松本フェスティバル期間中に実施してきたOMFウェルカム・ストリート・ライブを発展させ、通年的に楽都・まつもとライブとして開催するもの	・ライブ開催数:22回 ・延べ出演者数:255人 ・延べ鑑賞者数:8,758人 ※H30.1月末現在	参加者数	10,800	10,509	B	参加者の受け止め方	B	・開催当初は足を止めてもらえることが少なかったが、音作りを研究しながら、演奏環境の整備を行うことで、徐々に関心を向けてくれる人が増加し、鑑賞者数の増加につながった。 ・SNSを活用した情報発信においては、開催告知だけでなく、当日撮影した動画をアップロードした開催報告を行い、継続的な情報発信を行うことができた。	活動環境に係る市民の認識度、行動変化	C	・これまでに4団体から出演の希望を受けたが、音楽ジャンルや演奏技術等の理由により、1団体しか出演できていないのが現状であるため、継続的な実施はさることながら、一層の情報発信力の強化と人的ネットワーク作り注力したい。 ・楽都・まつもとライブに出演した団体がアーティストバンクまつもとへ登録していくルーティーンを確立し、より身近な地域や社会において、音楽文化活動に広がりが見られるような運営に努めたい。	・公共スペースにおける演奏活動のため、一定程度の演奏技術等が求められる。出演団体の固定化が見られる。 ・特に屋内で演奏ができる公共スペースが限られており、雨天や冬場の活動に支障がある。	・楽都・まつもととプロデューサーチームの連携により「アーティストバンクまつもと」との連携等により、市内の音楽活動家の掘り起こしを行い、幅広い音楽ジャンルから出演者の選定を行ってきたい。 ・表現者の活動支援として、音楽活動家同士の交流を促進できるような事業を展開したい。	
		28	施設の特性を活かした自主事業の実施と興味の掘起し	○	美術館	・市民の創作活動の発表や展示ができる快適な環境を提供し、市民の主体的、継続的な美術活動の場を提供する。	・美術館公式ホームページに展覧会開催日程等を掲載 ・利用団体数 85団体・個人 ・広報まつもと等に利用周知等について掲載	実施数	100	94	B	利用率	B	・年間の利用調整として、全国・県規模等の団体を優先に会場の確保を行っているが、利用団体が増え、小規模団体や個人利用が難しくなっている。	鑑賞者の伸び率	A	・地元や県内外からの観覧者が増え、発表の場を提供することにより市民等の芸術活動の活性化に繋がっている。	・利用率が非常に高くなっており、利用できない団体等が多くなっている。 ・開催15周年を過ぎ、老朽化が現れている。施設の計画的な維持補修が必要になっている。	・梓川アカデミア館の利用周知を含め、市民等の発表の場を提供する。 ・開催20周年の前年の平成33年に大規模改修を計画する。	
			「音楽文化ホール自主事業」		文化振興課	・クラシック音楽に適した音響を生かした事業を実施(音文) ・移動可能な小型パイプオルガン「ポジティブオルガン」を導入(音文)	・18事業(共催事業除く:音文) ・整音作業後、年度内にオルガン見学会を実施し周知(音文)	実施数	18	18		参加者数、満足度		・共催事業を除く自主事業の参加者数は目標を下回った。 ・アンケートから満足度は高かった。	鑑賞者の伸び率		・改修工事実施により自主事業実施時期に偏りがあつたこともあり、目標値を大きく下回った。	・ポジティブは、出前コンサートの実施に向けて子育て・教育機関との日程調整	・6/23ポジティブオルガンお披露目コンサート実施。その後、保育園、幼稚園、小学校等での出前コンサートの実施により、子どもたちの音楽への興味を掘り起こす	
		29	行きやすい環境づくり(周知の見直しを含む。時間帯の変更、無料の日、リピーター等をターゲットにした料金割引、託児等)	○	美術館 文化振興課(音楽文化ホール)	・鑑賞し易い対応として、臨時開館及び開館延長や観覧料の無料・割引の実施のほか、託児サービスや、美術館に親しんでいただくためのイベント(キャンドルナイト、夕涼みイベント等)を実施している。 ・また、今年度は、OMFの出前コンサートとして、オペラ「こどもと魔法」の公演を行った。	・臨時開館(8月の月曜日、1月3日)、開館延長4日、託児サービス年14回 ・観覧料無料・割引(開館記念日、市制施行記念日、バレンタインデー・ホワイトデー) ・イベント(夏・冬のキャンドルナイト、美術館で夕涼み)、OMF出前コンサート、ナイトミュージアム3回	実施数	28	34	S	参加者の満足度	A	・今年度は、文化庁の補助事業としてナイトミュージアム事業の実施地として松本市美術館が選ばれ、日本浮世絵博物館や歴史の里と連携した事業を行い、美術館・博物館を基点として、夜の商店街への回遊に繋げるための実証実験事業を実施した。	鑑賞者の伸び率	C	・各種事業を行っても、認知度が低く、来館者が少ない状況である。 ・各サービスを知らない市民等が多く、集客が思ったほど伸びていない。	・各種サービスの広報が少ない状況であるため、フェイスブックやツイッターなどのSNSを利用した広報を積極的に展開していきたい。	・各サービスの広報が少ない状況であるため、フェイスブックやツイッターなどのSNSを利用した広報を積極的に展開していきたい。	
							・U-25割引チケット(25歳以下)、公演時間の見直し、全公演の託児サービスの検討											・H30年度1年間を通じてその効果と影響を調べていく ・チケット金額を割引したことによる影響(チケット収入)が不明 ・結果によっては今後見直し	・U-25割引チケット(25歳以下)の設定(若者層への配慮:音文) ・公演時間の見直し(公共交通機関利用の利便性を考慮:音文) ・全公演の託児サービス開始(子育て中の親を支援:音文) (上記、いずれも30年度事業から適用)	
		30	利用者アンケートの実施(定性的・中長期的な評価項目の追加)	○	文化振興課(市民芸術館)	・まつもと市民芸術館の指定管理者である(一財)松本市芸術文化振興財団が実施する市民芸術館の自主事業公演において、公演時に鑑賞者に対するアンケートを実施し、公演の感想・鑑賞のきっかけ等を調べることで、より質の高い自主事業公演を展開するもの	・自主事業公演において、演劇・音楽・ミュージカル・ダンス・オペラ等においてアンケートを実施	実施数	22	22	A	利用者意向の把握(支持度)	B	・自主事業公演時に実施するアンケートは毎年行うが、公演内容も違い、また公演担当者がアンケートを整理するため、十分な共有ができていない。	意見の反映度	B	・アンケート集計の結果を受けて、市民の意見を反映した文化芸術作品の鑑賞機会の提供を実現させるために効果的な方法を検討する必要がある。	・公演ごとの集計結果資料の統一様式の検討 ・H29年度のアンケート実施数は、事業がすべて完了していないため、目標値と同数を記載。		
		31	市民モニター制度の導入による市民意見の拾上げ	△	文化振興課	・実施計画第48号「文化芸術振興の総合的な推進」で検討	・実計B 次年度以降検討	実施数				利用者意向の把握(支持度)		意見の反映度		・市民モニター制度に伴う市民意見の反映方法	・市民モニター制度導入にかかる関係文化施設との検討			
		(3) 各種文化芸術活動の促進及びそのための支援	32	きっかけとなる事業の実施「公民館研究集会」	○	生涯学習課	・公民館研究集会は、様々な立場の人や実践者、研究者が集まって課題を話し合う住民主体の集会。 ・集会では課題別に学習をさらに深めるために各種分科会を設定しており、地域文化に関連した分科会を開催。	・第33回公民館研究集会 地域づくり市民活動研究会「未来へつなぐ私たちのまちづくりの集い」において、第6分科会:文化財と環境「地域の"宝"地域づくりに結び付けていくために」を開催。	該当分科会の開催数	1	1	A	分科会参加者の伸び率	C	・地域文化に関わる分科会参加者の伸び率の減による(H28年度は全国規模の大会として実施) ・伸び率70.0%	市民満足度調査	評価できない	※H29市民満足度調査結果が出ないため、2月末現在評価不能	・参加者の固定化	・様々な主体が関わる集会成为、市においては、より多くの市民活動団体や住民、関係機関などの参画を呼び掛ける。
			33	きっかけとなる事業の実施「図書館まつり」	○	中央図書館	・映画上映会「いのちのかたち—画家・絵本作家いせひでこ—」 定員90人 ・いせひでこさん講演会「絵本—めぐりめぐる記憶の現場」 定員90人 ・リサイクル本の市民への無償配布 ・ミニおはなし会を3回開催 各回定員50人程度	・映画上映会 参加者62人 講演会 参加者72人 ・リサイクル本の無償配布 用意冊数 7,227冊、提供冊数 5,179冊 ・ミニおはなし会3回 参加者 ① 44人 ② 48人 ③ 22人 計 114人	参加者数	330	248	C	図書館まつり当日の新規登録数	C	・図書館まつりは、10月の最終土曜日に開催しているが、当日の新規登録者数は、他の土曜日と比較して特に多くない。イベントの開催は、新規登録者の拡大には繋がっていない。	市民の図書館利用率	C	・1月末の「市民の図書館登録率」が28年度末と比較して△0.8ポイント減少したため。	・普段図書館を利用していない人への周知の方法	・盛況なイベントとなっているので、継続実施していく。
			34	補助金による活動支援の検証「補助金の交付」	○	文化振興課	・市内で活動する文化芸術団体等の事業に対して補助するもの。	・才能教育会館大規模改修工事補助金 20,000千円 ・まつもと演劇連合会 まつもと演劇祭補助金 300千円 ・長野県華道教育会 華道展補助金 250千円	申請件数	3	3	A	活動支援による社会的効果の状況把握	B	・松本市補助金交付規則に基づき、市内で活動する文化芸術団体への補助金交付を行った。 ・実績報告書の提出に基づき、社会的効果の状況把握を行った。	相応しい支援手法への見直し	D	・文化芸術分野の振興を図るため、別手法による総合支援制度を検討する。	・新たに文化芸術に対する総合支援制度を創設し支援の在り方を検討する。(H30年度制度設計、H31年度実施)	
35	市民ニーズを踏まえた総合的な文化芸術活動支援制度の研究		○	文化振興課	・実施計画第48号「文化芸術振興の総合的な推進」で検討	・祝金制度の要綱改正 ・先進都市事例の研究	素案の形成	1	0	D	社会的効果を踏まえた制度設計	C	・祝金については効果を踏まえた改正ができた。 ・総合支援制度については、研究段階のため。	活動環境に係る市民の認識度	D	・総合支援制度については、研究段階のため。	・祝金の交付が文化振興に資するとは必ずしも言えない。	・文化芸術分野の振興を図るため、別手法による総合支援制度を検討し平成31年度からの実施を目指す。		

松本市文化芸術振興基本方針に基づく評価状況一覧表(H30.3.26審議会)

基本方針		誰もが多種多様な文化芸術に気軽に触れ、ワクワク・ドキドキが生きがいと新たなうねりにつながるまちづくり、人づくりを進めます。				〈評価の基準〉S:目標を上回る A:達成 B:ほぼ目標どおり C:目標を下回る D:目標達成困難														
						アウトプット(活動・結果)				アウトカム(成果)				インパクト(波及効果)				今後の展開		
分野方針	基本的施策	No.	個別項目・「事業名」	進捗	所管課	平成29年度の実施内容	実績値	指標	H29目標	H29実績	評価	指標	評価	理由	指標	評価	理由	課題	今後の計画	
3 文化芸術を担う人材の養成・確保	(1)文化芸術に関心を高めるための子どもたちへの取り組み	36	教職員の資質向上 「教育委員会主催教職員研修会」	○	学校指導課	・松本市の教職員の資質向上に向けて、市主催の研修会を行い、教職員の力量アップにつなげていく。	・特別支援教育実務者研究会 9回、初任者研修 2回、中堅教員等資質向上研修 1回、CS研修会 1回 ・外国語教育研修会 1回、人権教育研修会 2回 人権教育研究協議会 1回 スポーツ文化活動推進委員会 2回 組体操講習会 1回、若手教員指導力アップ講座 5回、総合的な学習の時間「特別活動」研修会 1回	研修の回数	24	26	A	全国学力学習状況調査	B	①今住んでいる地域行事に参加していますか ②地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか 小学校調査(小6)H29①91.1pt②70.6pt 中学校調査(中3)H29①65.0pt②62.4pt	全国学力学習状況調査	B	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいますか。 小学校調査(小6)H29①63.4pt 中学校調査(中3)H29①63.4pt	・研修会によっては参加人数が少ないものがある。	・研修会参加者のニーズをしっかりとつかみ、必要としている情報や最新の動向など教職員が参加したくなるような研修会を企画・運営していく。	
		37	学校サポート事業(部活動等、シニア層の市民力の活用を含む。) 「郷土の関わる学習、部活動支援」	○	生涯学習課	・学校サポート事業は、学校・家庭・地域の連携により、地域の多様な人材とともに地域の子どもを地域で育てるもの。 ・総合的な学習の時間における地域学習や、部活動の支援で、地域の多様な人材による学習支援を実施。	・H23年度から全35地区で学校サポート事業を実施。 ・総合的な学習の時間で、地域の学習として地域の歴史や史跡巡り、伝承文化、郷土料理の学習や、部活動の支援として、茶道、生け花、陶芸など、地域の方を講師に、各学校のニーズに応じ実施。	学校サポート事業数	230	277	S	参加者の伸び率	A	・昨年度に比べ事業数も増加し、参加者数の伸び率は130.7%となった。引き続き多くの方に参加いただけるよう学校との連携を深め事業の推進を図る。	市民満足度調査	評価できない	※H29市民満足度調査結果が出ないため、2月末現在評価不能	・地域により学校との連携等事業の取組みに温度差がある。	・H30年度から松本版・信州型コミュニティスクール事業と学校サポート事業の予算を統合し、公民館の係わりを深め、地域と学校の熟識による取組みを推進する。	
		38	「OMF 子どものための音楽会・オペラ」	○	国際音楽祭推進課	【音楽会】県内の小学校6年生を対象に、質の高いオーケストラ鑑賞の機会を提供し、地元青少年の音楽教育、情操教育に寄与するもの 【オペラ】県内の中学校1年生を対象に、質の高いオペラ鑑賞の機会を提供し、地元青少年の音楽教育、情操教育に寄与するもの	【音楽会】H29年9月1日(金) 午前・午後 2公演(174校 10,152人) 【オペラ】H29年9月5日(水)、6日(木) 午前・午後 4公演(71校 5,424人)	鑑賞者数	15,359	15,576	A	子どもの気持ちの変化に係る肯定的評価	B	・音楽会については、小学校6年生を対象に参加募集をしたところ、9,200人弱の参加申込となり、低調な結果となったことを受け、市内の4,5年生を対象として追加募集を実施したことにより、昨年を若干上回る参加となった。 ・ホク文化ホールでの開催がなかったため、特に長野広域、北信広域の参加は少ない結果となった。 ・オペラについては、昨年を上回る参加となった。	子どもの気持ちの変化に係る肯定的評価	B	・これまでのオーケストラ公演ではなく、オペラ:ラヴェル「子どもと魔法」をコンサート形式で行ったことにより、オペラを鑑賞する貴重な機会を提供できた。 ・一方で、小学生にとっては、フランス語のオペラを鑑賞することが難しい、とする学校側の意見もあった。	・児童数の減少に伴い、参加人数が減少傾向である。	・より多くの児童、生徒に鑑賞してもらえるよう、その年の参加申込状況を考慮しながら、座席数に空きがある場合には他学年まで対象を広げる等、柔軟な運営に努めたい。	
		39	「ブックスタート事業」	○	中央図書館	・乳児を持つ親が絵本を読み聞かせながら赤ちゃんを楽しいひと時を持っていただくことを目的として、10カ月検診時に、絵本1冊と図書館で作成した絵本リスト(いっしょによもうね、こんにちははほん)(0歳～3歳対象)を配布するもの。(平成13年度から実施)	・2018年1月末現在 配布対象者数(10カ月検診受診者)1,638人 配布者数 1,638人	配布数	1,638	1,638	A	対象の子供に対する配布率	A	・10カ月検診で会場に来た受診者全員に絵本及びブックリストを配布することができた。	児童書の貸出冊数	D	・1月末現在の児童書貸出冊数が、28年度と比較して△9,758冊、△1.8ポイント減少したため。	・「お子さまへの読み聞かせの効果」のパンフレットの作成配布を行う。 ・センカドブックの実施について検討を進める。	・「お子さまへの読み聞かせの効果」のパンフレットの作成配布を行う。 ・センカドブックの実施について検討を進める。	
		40	未来の学都を支える子どもの育成事業	○	美術館	・未就学児が親子で美術館に親しむ講座「はじめてのびじゅつかんさんぼ」や高校生対象の講座などを開催したほか、学芸員が学校生徒や教職員を対象に美術館の概要説明を行ったり、館外に出張して講義やワークショップを実施した。	・はじめてのびじゅつかんさんぼ(4回開催):のべ70人、高校生講座:20人 来館対応:22件638件、アートおとどけ講座:5件153人(依頼に応じて随時対応)	参加者数	110	90	B	子どもの心理変化	A	・例年、各層の子ども対象事業を開催しているが、特に未就学児向けに親子対象の「はじめてのびじゅつかんさんぼ」への関心は高く、夜間に館内の作品を巡る探検ツアーは毎回定員となりキャンセル待ちが出るほど人気がある。 ・鑑賞教育の導入として学校や館内講座室での「アートカード」を使ったワークショップを実施することにより、「今度は本物を見たい」という子どもの感想が増えた。	子どもの行動変化(影響率)	A	これまで「アートカード(美術館収蔵品の写真カード)」を制作し、鑑賞補助教材としてワークショップで活用してきたが、実際に作品を鑑賞する際に常時使用できるツールがなかった。	これまで「アートカード(美術館収蔵品の写真カード)」を制作し、鑑賞補助教材としてワークショップで活用してきたが、実際に作品を鑑賞する際に常時使用できるツールがなかった。	作品鑑賞時に使用できるワークシート形式のノートを新たに作成し、「観る」教育のための補助教材とする。	
		(2)若手芸術家等への支援、指導者育成	41	空き家等の活用によるアートプロジェクト事業	△	文化振興課政策課等	・平成29年10月:都市政策課に「空き家対策全般の総合窓口」が設置。 ・空き家対策については所管が政策課から都市政策課へ移ったため該当なし	・庁内体制が整備された。	実施数					参加者の心理変化			地域の変化			・平成29年10月から都市政策課に「空き家対策全般の総合窓口」が設置され、庁内体制が整備された。 ・先進都市の事例を研究し、特に若手芸術家等による空き家の活用を検討する。
			42	指定無形民俗文化財の伝承事業の充実	○	文化財課	・指定無形民俗文化財の確実な継承を支援するため、保存団体に対して補助金を交付する。	・指定無形民俗文化財保存団体7団体への補助金交付。	参加者数	180	210	S	参加者の伸び率	A	・補助対象の無形民俗文化財に関わる参加者数が目標値を上回っており、文化財保護に関する市民意識の醸成が進んでいると捉えることができる。	新規参加者の有無	B	・補助金交付団体数から指定無形民俗文化財が継承されていることがわかる。ただし新規参加者の詳しい状況は把握できていない。	・文化財の継承者の育成が進んでいるか、無形民俗文化財保存団体の現状と意向を把握する。 ・松本市歴史文化基本構想に基づき、新たな指定無形民俗文化財の支援策を検討する。	
			43	アーティストバンクの整備及び活用 「アーティストバンクまつもと」	○	文化振興課	・本市にゆかりのあるアーティストを掘起し、情報を集めて公開することで活動の場を広げ、若手芸術家を始めとした育成・交流につなげるとともに市民が文化芸術に触れる機会づくりにも役立てる。	・松本市公式ホームページに掲載開始 6/26 ・登録数 87団体、個人 ・広報まつもと 11月号に活用の記事掲載	登録数	100	87	B	活用実績	D	・今年度は、担当課に報告があった活用事例は2件であった。活用事例を把握できていないことも考えられるが、引き続きメルマガをPRしながら活用を図る。	まちの活性化に対する市民の認識度	D	・活用が図られていないため、まちづくり、人づくりへの貢献の検証まで至っていない。	・アーティストバンクによるアーティスト間や市民等との連携の事例は具体化していない。 ・アーティストバンクの活用やメリットについての周知が十分でない状況にある。	・活用状況の検証を行い、平成30年度からアーティスト間の連携強化を支援し、新たな交流や地域の活性化につなげる取組みを行う。(楽都・まつもとライブとの連携等)
		(3)文化芸術専門職の人材育成・資質向上	44	大学等と連携したプロデュース力をもった職員の育成	○	文化振興課	・芸文財団職員の研修参加 ・市の文化芸術部門担当者の研修参加	・全国劇場・音楽堂等アートマネジメント研修会等 参加	研修参加者数	5	5	A	利用者の満足度	D	・満足度は高いが、職員の専門性との関連について検証がされていないため。 ・今後、大学等との連携による取組みを進める中で、評価・検証方法についても検討が必要。	文化施設に対する市民の認識度	D	・評価方法が確立されていない。 ・今後、大学等との連携による取組みを進める中で、評価方法についても検討が必要。	・施設における事業運営、企画制作の専門性を高める研修には対応できないが、コーディネート力のある職員の育成にはつなげたい。 ・市民や地域と、文化芸術を結び付ける取組みへの対応が難しい。	・市民や地域と、文化芸術をつなぐ取組みができるプロデュース力をもった職員の育成について、地元の大学と連携の検討
			45	市民プロデューサーの育成	×	文化振興課			実施数					育成者数			地域の変化(期待度)			・市民プロデューサーに対するニーズ、活躍の機会(場)の有無について調査が必要
46	市民プロデュース企画による地域活性化		×	文化振興課			実施数					参加者の心理変化			地域の変化(影響率)				・市などが主催する既存のイベントの担い手(主催者)としての活躍の場の提供	

松本市文化芸術振興基本方針に基づく評価状況一覧表(H30.3.26審議会)

〈評価の基準〉S:目標を上回る A:達成 B:ほぼ目標どおり C:目標を下回る D:目標達成困難

基本方針	No.	個別項目・「事業名」	進捗	所管課	平成29年度の実施内容	実績値	アウトプット(活動・結果)		アウトカム(成果)		インパクト(波及効果)		今後の展開								
							指標	H29目標	H29実績	評価	指標	評価	理由	指標	評価	理由	課題	今後の計画			
(4) 文化ボランティアの育成	47	文化ボランティアの楽しみを広げる機会づくり	○	文化振興課	・まつもと街なか大道芸、信州・まつもと大歌舞伎及び関連事業の開催に当たり、市民サポーター等を募集し、市民との協働によりイベントを盛り上げる中で、ボランティア活動の場を提供するもの	平成29年度実施 第5回まつもと街なか大道芸 ボランティアスタッフ数 93名 平成28年度実施 第5回信州・まつもと大歌舞伎及び関連事業 市民サポーター数 395名	実施数	100	93	B	参加者の満足度	B	・ボランティアのリピーターが多い	文化ボランティアの登録数の伸び率	B	・隔年で開催される「まつもと街なか大道芸」と「信州・まつもと大歌舞伎及び関連事業」は、松本の夏の風物詩として定着しており、スタッフ募集周知の段階から市民の関心も高く、ボランティア登録数の伸び率が着実に伸びている。 ・信州・まつもと大歌舞伎市民サポーター登録数伸び率+1% (前回比) ・まつもと街なか大道芸ボランティアスタッフ登録数伸び率+8.1% (前回比)	・各種媒体を使ったボランティアスタッフの募集	・H30開催の第6回信州・まつもと大歌舞伎に向けた、市民サポーター募集			
	48	文化ボランティアリーダーの養成	○	文化振興課 地域づくり課	・まつもと市民芸術館の指定管理者である(一財)松本市芸術文化振興財団が事務局を務める、まつもと市民芸術館ボランティアの会が、市民芸術館の自主事業でボランティア活動を行うため、毎年先進地の視察や接遇研修等を実施し、ボランティアリーダーの養成を行う。	・ボランティアの会 会員数 71名 ・ボランティア接遇研修 2回実施 ・ボランティア視察研修 1回実施	研修等回数	2	2	A	育成者数	C	・ボランティア活動の先進地視察や講師による接遇研修等は原則全員受講となるが、日程等の都合により受講者数は少ない。 ・ボランティアリーダーになろうという意識が低い	従事イベント参加者の支持率	B	・自主事業公演時のボランティアの充足数は想定数に達している。	・ボランティアリーダー意識の高揚	・他文化施設でのボランティア活動の視察及び講師による接遇研修の実施 ・信州・まつもと大歌舞伎市民サポーターのリーダー会継続実施			
	49	受け入れる側での文化ボランティア・マネジメント機能の充実	○	文化振興課	・まつもと市民芸術館の指定管理者である(一財)松本市芸術文化振興財団が事務局を務める、まつもと市民芸術館ボランティアの会が毎年実施する先進地の視察や接遇研修に財団・市職員が帯同し、ボランティア研修と一緒に受けながら、ボランティア知識の蓄積と情報や課題の共有を図るもの	・年2回のボランティア接遇研修に同席 ・年1回のボランティア視察研修に同行	研修等回数	3	3	A	文化ボランティア参加者の満足度	B	・視察研修及び接遇研修は毎年定期的に実施し、会員も参加しているが、研修内容の充実を図るために会員と一緒に内容を検討する必要がある。	従事イベント参加者の支持率	B	・自主事業公演時のボランティアの充足数は想定数に達している。	・定期的なボランティア活動に対する知識の蓄積と情報共有する機会を設ける	・市民芸術館ボランティアの会が実施する研修会の企画への参画			
	(5) 顕彰	50	文化芸術大賞の顕彰方法等の見直し	○	文化振興課	・表彰制度の目的に即した制度に変えていくために、要綱の改正を行う。	・表彰要綱第5条(表彰者の推薦/自薦他薦制度→他薦制度へ)、第7条(組織/任期を適年へ)等の内容改正	制度設計	制度の検討	要綱改正	B	表彰制度の見直し及び充実	C	・制度の確立に向けて一部要綱改正を行った。更なる要綱の見直し等検討が求められる。	市民満足度調査「音楽や芸術に魅了されている」平均点	評価できない	・表彰制度に更なる広がりを持たせていくために、委員間の文化芸術に関する学習及び被表彰者に係る情報共有、また要綱の変更に関する議論を進める必要がある(H29選考委員会における意見)。	・次年度以降選考委員会の回数を増やし、学習及び情報共有等の機会を設ける。			
		4	(1) 観光・産業等との連携・振興	地域の魅力発見による観光コンテンツ、文化体験型企画の開発・発信(ロゲイニング等) 「スポーツコミッション事業」	○	観光温泉課	・スポーツを切り口に観光誘客を行う ・29年度は新規に国内初のロゲイニングの全国大会(第1回日本ロゲイニング選手権大会)を実施	・ロゲイニング選手権大会参加者数183人(県外参加率95.6%)	企画開発件数	1	1	A	県外参加率	B	・県外参加率が非常に多く、北は秋田県、西は島根県から参加があった。スポーツを通じて、新たな観光客層が松本を訪れるきっかけになった。	観光地延入込数	B	・参加者はもとより、参加者によるSNSでの発信等により、松本の認知度向上に繋がったと考える。今後の効果が期待される。 ・観光地延入込数 H28 5,115,958人 H29 5,122,699人	・市内の様々な地域を回る競技であるため参加者に松本を知ってもらう機会にはなったが、競技性が強く、観光面や経済面に直接的に効果があったか把握が必要	・ロゲイニングの大会は今後も定期的に開催し、その他の新たなコンテンツについても企画・検討し、松本へ来訪するきっかけづくりを行っていく。	
52	松本ものづくり伝承塾事業の充実(工芸、民藝等の産業としての活性化を含む。)	○					商工課	・ものづくり体験講座の開催 ・後継者育成助成 ・啓発活動(ガイドブックの配布) ・大都市圏でのPR活動	・2回 72人参加 ・1件 ・市内小中学校全校配布 ・物産展出展2回(東京、名古屋)	参加者数	100	72	C	民芸に対する市民の認知度、行動変化(支持率)	C	・一般市民の受講者数が伸び悩むなど民芸に対する関心が低い	松本地域のイメージの向上(支持率)	C	・民芸品の浸透度が低い	・伝統工芸品等の需要拡大	・伝統工芸品を活用しやすくする施策の検討
53	空き家等の活用 「松本市商店街空き店舗活用事業」	○					商工課	・商業の活力を増進するため商店街の空き店舗の解消を促進することを目的に、事業者が商店街の空き店舗を賃借して開業する場合の家賃を補助するもの。	・松本市公式ホームページに事業概要を掲載 ・H29年度新規交付決定件数:5件	事業数	3	5	S	関係者の心理変化	S	・当該補助事業を利用した事業者が5件と直近5年間のうち最も多く、商店街等の魅力向上に繋がった。	地域の変化(影響率)	A	・県外からの移転や多店舗展開を行う事業者の後押しとなった。 ・県外からの移転:1件(東京都から移転) ・他店舗展開:3件	・類似の支援制度である創業者支援事業の補助を利用した事業者に比べ、空き店舗活用事業の補助を利用した事業者の事業継続率が低いこと	・事業の早期問題解決となるよう、松本商工会議所等と連携し、経営指導員による事業者への定期巡回等の実施を検討する。
54	創造のためのマッチング機会の増大 「松本市製造業等活性化支援事業補助金」	○					商工課	・まつもと工業支援センター内の工業振興アドバイザーを中心に事業化に向けた企業支援を行い、補助金の活用など、新製品、新事業創造に取り組む。	・H29年度申請件数 6件	マッチング数	4	6	S	関係者の心理変化	S	・H28年度実績2件から比較すると、申請件数は3倍となっている。 ・H29年度申請件数6件	地域の変化(影響立)	S	・H28年度実績2件から比較すると、申請件数は3倍となっている。 ・H29年度申請件数6件	・健康医療産業分野の参入企業数は大幅な増加に至っていない。 ・その他、本誌の地域資源を活用した新製品の開発等、新たな重点産業の推進が課題。	・新たな重点産業として、健康医療産業に加え、食料品製造、産業用ロボット等の高度な産業用機械分野を推進していく。
55	「松本検定」	○					観光温泉課	・松本市の歴史、文化、観光名所などについて総合的に学ぶことで知識を深め、本市を訪れたお客様に地域の情報や魅力を自信を持って伝えよう、より一層心のこもったおもてなしができるよう、また、松本の素晴らしさを再発見してもらうことを目的とし、松本検定を開催するもの。	・平成29年度、松本検定実行委員会が事業の見直しを行い、開催時期の変更が決定したため、次回(第12回)の実施は平成30年の秋を予定。	受験者数				評価できない	受験者の行動変化	評価できない	松本地域のイメージの向上(支持率)	評価できない	・受験者数が年々減少していること。 ・合格者のインセンティブを充実させる。	・受験者がより受験しやすいよう、開催時期を冬から秋に変更する。	
56	市民を対象とした地域資源再発見講座、ツアー 「地域の伝統行事や郷土料理の学習ほか」	○					生涯学習課	・地域の伝承事業や郷土料理など、地域に親しみ、地域の文化を知り、実際に体験できる講座を各地区公民館で開催。文化伝承を図るとともに地域住民の交流の場とする。	・各地区公民館だより等で周知	地域文化事業数	160	160	A	参加者の伸び率	C	・受講者の高齢化等により、参加者は減少傾向にある。 ・伸び率75.1%	市民満足度調査	評価できない	※H29市民満足度調査結果が出ないため、2月末現在評価不能	・地域に誇りを持ち、地域の未来を担う子ども達の育成	・コミュニティスクール事業との連携による、子ども達の地域への愛着心の涵養

松本市文化芸術振興基本方針に基づく評価状況一覧表(H30.3.26審議会)

基本方針		誰もが多種多様な文化芸術に気軽に触れ、ワクワク・ドキドキが生きがいと新たなうねりにつながるまちづくり、人づくりを進めます。				〈評価の基準〉S:目標を上回る A:達成 B:ほぼ目標どおり C:目標を下回る D:目標達成困難				今後の展開									
分野方針	基本的施策	No.	個別項目・「事業名」	進捗	所管課	平成29年度の実施内容	アウトプット(活動・結果)				アウトカム(成果)				インパクト(波及効果)				
							実施の効果を客観的に確認できる定量的指標				事業によって直接的にどのような効果をもたらしたかを測る定性的指標				事業によって生活の質、経済等どのような波及効果をもたらしたかといった中長期的な影響度を測る定性的指標				
						実績値		指標	H29目標	H29実績	評価	指標	評価	理由	指標	評価	理由	課題	今後の計画
(2) 地域活性化、まちづくりとの連携・振興		57	「松本あめ市」	○	商工課	・中心市街地の町会・商店街団体が主体となり、街なかで各種催しを実施し、伝統行事の継承と中心市街地の活性化の推進を図る。 ・全体来場者数:約12万人(13日約4万人、14日約8万人) ・あめ市歴史展示企画展「福の神とあめ市」観覧者数:1,193人 ・全国あめ博覧会展示・即売会:36社96種類 ・商都大物産市出店数:12団体 ・あつたか鍋の振舞い:配布数約1,350食 募金額112,309円 ・広報まつもと1月号掲載、松本市公式ホームページ掲載、ポスター市内全域掲示、チラシの新聞折り込み	集客数	120,000	120,000	A	市民意識の変化	A	・今回の開催は本行事の起源とされる故事から450年目の節目の年に当たることから、その由来についてポスター・チラシ・ホームページ等で広く周知を行った。また、同時に時計博物館で開催した「あめ市歴史展示企画展」では、期間中の観覧者が1,100人を超え、市民が松本の伝統行事の歴史に触れる機会となった。	地域の変化、売上額	A	・物産展や全国あめ博覧会展示即売会等の物販等においては、前年を超える収益となった。 ・塩取り合戦や太鼓連の競演をはじめ、各種催しには多くの来場者が訪れ、会場となった中心市街地は大いに賑わった。普段中心市街地に来ない方も街なかの魅力を知る機会となり、今後の来街者増加に繋がるきっかけとなるイベントとなった。	・担い手の減少と後継者の不在 ・財源の確保	・商店街団体や町会から若手の担い手を実行委員に登用する等、地域の中で継続的に開催ができるよう体制づくりを進める。	
		58	信州・まつもと大歌舞伎関連事業 「まつもと街なか大道芸」	○	文化振興課	・文化芸術振興と街なかの賑わいを創出するために、商店街や市民ボランティア等の参画により、第5回まつもと街なか大道芸を開催する。 ・7月16日(日)当日の大道芸をはじめ、エクスラン高校や市内店舗とも連携した各種関連企画の充実、ローカルパフォーマンスステージ(アマチア)・前夜祭・楽都まつもとライブなどの新企画、三の丸倶楽部と連携した企画等、松本らしい大道芸が実施できた。	参加者数	57,000	58,800	A	市民満足度調査「中心市街地に賑わいが感じられる」平均点	評価できない	・市民満足度調査「地域づくり活動が活発に行われている」平均点	市民満足度調査「地域づくり活動が活発に行われている」平均点	・開催時期の変更について、実行委員会において提案されているため、30年度中に関係者における検討が必要(7月→秋ごろ)	・次回の実施に向け、第5回実施内容をベースに新たな取組みの企画・運営や既存内容の見直しを行い、全体のブラッシュアップを図る。			
		59	「松本ほんぼん」	○	観光温泉課	・「アルプスの里歴史を偲ぶ城下町に響かせよう松本ほんぼんの歌と踊りを！」をテーマに、実施した。 ・実施に向けては連長会議を開催し、素晴らしい踊りを、素晴らしいマナーで、素晴らしい会場の雰囲気にするべく調和を重視した指導を徹底した。 ・最終参加連 246連 ・人出 17万人 ※インターネットの書き込みによる殺人予告があり、13連がキャンセル連となった。	参加者数	24,500	22,500	B	市民意識の変化	A	・今年で43回目の開催となり、市民に対する祭りへの関心は非常に深まっていると見られる。祭り開催時期も、8月第一土曜日に決定されており、観光客が翌年の宿泊を予約する場合一年前から予約することができ、一定の評価を得ている。 ・祭りに参加する連のマナーであったり、見物客のマナー向上が今後の課題である。	地域の変化、売上額	A	・一夜に17万人を超える見物客を有する松本ほんぼんは、地域の活性化の一助となっており、それに伴う経済効果は大きいものと判断する。 ※参加者数は踊り手のみ人出は見物客+踊り手(観光客)	・一部の踊り手の方のマナーが悪い。7回目の踊りの時に、幼稚園、保育園、小学校の連が抜けてしまっている(帰ってしまう)、松本ほんぼん参加連全体が歯抜け状態になってしまう。 ・イオンモールがオープンしている中で状況を見極め、踊りコースの変更対応が必要。	・踊り手の方に、決められた踊り方やステップで踊ってもらい、正しい踊りを統一感をもって(帰ってしまう)、松本ほんぼん参加連全体が歯抜け状態になってしまう。 ・踊り時間や踊りコースの見直しをし、今以上に良い環境を整える。(月2回ほど会議を開催し、見直しを行っている)	
		60	歴史文化基本構想の策定及び推進	○	文化財課	・松本市歴史文化基本構想の策定 ・松本市歴史文化基本構想報告会の開催 ・「関連文化財群紹介ハンドブック(仮称)」の刊行	策定状況、事業進捗率	100	100	A	認定文化財群の数	A	・松本市歴史文化基本構想策定事業は事業工程どおりに進められている。(認定文化財群の数は制度設計前につき指標としない)	認定文化財群の保存活用に係る支援策の利用件数	B	・松本市歴史文化基本構想が各地区公民館の協力を受け策定されたことにより、認定文化財群認定などの支援策検討を推進することができる。(支援策の制度設計前につきインパクト指標は使用しない)	・松本市歴史文化基本構想に基づいた具体的施策を検討する必要がある。	・行政・市民・関連団体で構成する協議会を設置し、松本市歴史文化基本構想に基づく文化財保存活用の具体的施策を検討する。	
		61	歴史的風致維持向上計画の推進	○	都市政策課	・松本市歴史的風致維持向上計画に位置付けられた事業の進捗管理及び評価を行い、国へ報告ののち、市ホームページへ公表する。 ・平成28年度の進捗管理及び評価について、市ホームページへ掲載(H29.9.7) ・平成29年度の進捗管理及び評価を行った。 ・本計画を市民へ周知するための広報まつもとへ掲載(11月号)	個別事業の進捗	100	100	A	歴史的風致に対する市民意識の変化(認識度)	B	・歴史、文化を活かした景観形成による住環境の向上 ・伝統行事、伝統文化の保存、継承 ・観光都市としての魅力の向上	B	・歴史的風致維持向上施設の整備により、中心市街地の主要な通りの歩行者通行量の増加につながっている。	・計画の更新についての方針が定まっていない。	・H30年度:進捗管理・評価 ・H31年度:進捗管理・評価 ・H32年度:最終評価、計画の更新についての検討		
		62	「松本城世界遺産推進事業」	○	文化振興課	・松本城の世界遺産登録の実現を目指し、松本市民の宝である松本城の恒久的な保存と市民の文化財保護意識の醸成及び地域産業の活性化を図ることを目的とした「国宝松本城を世界遺産に」推進実行委員会と連携し、市民と行政の協働により、市民挙げての普及・啓発活動へ取り組む。 ・松本城検定クイズ(9校約800人)、市民向けシンポジウム(9/17約170人)、松本城ウォーク2017(11/11.12約1,000人)、周知活動(ホームページ更新等)等	参加者数	5%	B	市民意識の変容	A	・国宝松本城及び世界遺産(登録推進)に関する認知度を、平成32年度には50%に引き上げることを目指しており、今年度は当初予定した通り概ね取組みが進められているため(認知度指標:事業参加者数等)。	登録の成否	C	本事業及び当委員会の目的のひとつに「世界遺産登録」を掲げる。 暫定一覧表候補 カテゴリ1b	・推進実行委員会の目的に対して実施事業が適切なのかどうか、会員の意識が醸成されているかどうか等を確認し、方向性を共有した取組が求められるため、作業部会を実施して活動の方向性を検討する。	・平成29年度の実施結果及び作業部会における検討結果をもとに、次年度の活動内容について企画する。		
(3) 文化芸術による交流促進		63	シティプロモーション素材の開拓	×	文化振興課 都市交流課	・都市交流課該当事業なし	新たな素材提案数				松本のイメージの向上		交流人口の伸び率				・活用されていない文化コンテンツやイベントにも注目したシティプロモーションの推進に向け研究する。		
		64	プロスポーツを通じた地域交流 「プロスポーツ賑わい創出事業」	○	スポーツ推進課	・松本山雅FCのホームゲームで松本に訪れるアウェーサポーターの回遊性を高め、中心市街地への誘客及びリピーター率の向上を図るため、松本中心市街地及び松本市内の観光地等を掲載した観光・グルメマップを作成し配布するもの。また、同時に「アウェーサポーターおもてなしキャンペーン」を実施し、中心市街地飲食店等への誘客促進を図るもの。 ・観光・グルメマップを13,000人へ配布	配布数	13,000	13,000	A	松本のイメージの向上	B	・「アウェーサポーターおもてなしキャンペーンin松本」のちらしを観光・グルメマップと同時に配布し、中心市街地飲食店等への誘客を促進 ・参加店で独自のサービス(おもてなし)を実施 キャンペーンちらしに付随しているアンケートの回答者から、抽選で松本の特産品を贈呈して松本をPR	交流人口の伸び率	C	・交流人口がどれくらいいるのかわからないため、伸び率の把握まで至っていない。	・どれくらいのアウェーサポーターがキャンペーン参加店を利用したか、把握が困難な状況にある。	・引き続きアウェーサポーターおもてなしキャンペーンを実施し、松本のイメージ向上に繋げる取組を行う。	

松本市文化芸術振興基本方針に基づく評価状況一覧表(H30.3.26審議会)

基本方針		誰もが多種多様な文化芸術に気軽に触れ、ワクワク・ドキドキが生きがいと新たなうねりにつながるまちづくり、人づくりを進めます。				〈評価の基準〉S:目標を上回る A:達成 B:ほぼ目標どおり C:目標を下回る D:目標達成困難										今後の展開			
分野方針	基本的施策	No.	個別項目・「事業名」	進捗	所管課	平成29年度の実施内容	実績値	アウトプット(活動・結果)			アウトカム(成果)			インパクト(波及効果)			課題	今後の計画	
								実施の効果を客観的に確認できる定量的指標	指標	H29目標	H29実績	評価	事業によって直接的にどのような効果をもたらしたかを測る定量的指標	指標	評価	理由			事業によって生活の質、経済等どのような波及効果をもたらしたかといった中長期的な影響度を測る定量的指標
	基本的施策	65	市民レベルの都市間交流につながる取組み	○	都市交流課	・姉妹都市や交流協定都市をはじめ、全国に本市の魅力ある観光及び文化等の素材を情報発信するとともに、各都市間において観光、文化、教育交流事業等を実施し、交流人口の拡大に繋げる。	・交流事業数 87	取組数	80	87	A	リピーターの伸び率	A	・各都市間との交流事業及び本市の情報発信事業を継続的に実施しているため、都市間交流が着実に進んでいると考えるが、リピーターの把握については困難な状況にある。	交流人口の伸び率	B	・都市間との交流事業等を継続的に実施していることから、交流人口の増加は見込めるが、交流人口の伸び率の把握までには至っていない。	・都市間交流を実施している内容や各都市の情報等を十分に周知する必要がある。	・都市間交流を行っている各都市の紹介や交流事業の内容について、市広報、HP等を活用し、市民に周知するとともに、交流人口の拡大に繋げるため、引き続き各都市との交流事業に取り組む。
		66	クラインガルテンを通じた地域交流	○	農政課	・坊主山クラインガルテン52区画、緑ヶ丘クラインガルテン78区画の、公募による利用率100%を毎年達成できる管理業務の推進	・魅力ある各種イベントの開催17回 ・年度別計画による施設の改修 ・休憩施設外壁塗装44棟、デッキ修繕1棟、デッキ塗装1棟	イベント回数	9	17	S	利用率	B	・今年度は、緑ヶ丘クラインガルテンに空区画が1区画あった。利用開始日直前の急な辞退者による空区画の発生だったが、新鮮な情報による魅力ある広報活動を図る。 ・利用率99.2%	延べ利用人数	B	・多くのクラインガルテン利用者が訪れているので、二地域居住による地域の担い手としての結びつきの機会を増やしていきたい。	・全国で60カ所以上のクラインガルテンが整備されており、近年は利用希望者が減少している。	・施設整備の他、独自の取り組みのPR活動に努める。
					西部農林課	・遊休農地の有効活用と豊かな自然、風土を守り、都市と農村の交流を図るもの	・施設の利用率 88.3% (利用棟数 53棟/60棟)	登録数	60	53	(B)	活用実績	延べ利用人数		・施設設置から20年近く経過しており、地域に根ざした施設となっているため、交流が十分に図られている。 ・首都圏近郊に類似施設が作られ、昨今では空き区画も増えている。自発的な募集宣伝が十分に実施されていない。		・利用棟数、利用率の向上に向けた募集活動、交流事業内容の充実を行う。 ・来年度から指定管理者を1団体に統合するため、利用者サービスへの影響がないよう調整を図る。	・管理団体の変更に伴う利用者サービスへの影響、募集活動や運営の効率化について調整を図っていく。	
		67	国際交流にアピールできる文化芸術交流プログラムづくり	△	文化振興課	・文化施設を管理運営する松本市芸術文化振興財団との事業化協議		実施数					文化目的の来松外国人の伸び率			付加価値額の伸び率		・文化芸術交流に向けたプログラムづくりを国際交流を実施する関係課との調整協議	・国際交流を実施する関係課との調整協議 ・松本市芸術文化振興財団との事業化等の協議
		68	「多文化共生施策推進事業」	○	人権・男女共生課	・市民の異文化理解を深めるため、他国料理教室を通じて異文化を知る機会を設ける。また、外国人住民には、日本の文化の理解を深めるため、日本料理教室を開催する。	・5月 ブラジル料理教室・7月 中国料理教室 ・9月 ベトナム料理教室 ・10月 韓国料理教室 ・11月 フィリピン料理教室 ・1月 日本料理教室	実施回数	6	6	A	異文化に対する市民の認識度	B	・参加者数は、毎回定員には達しているが、参加する方が固定化する傾向がある。	従事イベント参加者の満足度(支持率)	B	・参加者からのアンケートより、多くの方から満足度が高い旨の回答が得られた。	・自国の文化を紹介できる外国人住民が少ない。	・自国文化を紹介する人材を育成するため、プレゼンテーションスキルアップ講座を開催する。
		69	単独学級講座事業(人権・多文化共生分野) 「多文化共生事業 こいこい松本」	○	生涯学習課	・県内で一番多く外国人住民が在住する松本地域において、ネットワークづくりやストレス発散および楽しむ場、多文化共生の楽しさを日本人にアピールする場が必要。そのため、松本周辺に居住する外国籍住民・外国由来の人たちを中心とした交流会を開催し、お互いの異文化に触れ、理解を深め、親睦を図る。	・H29.6.18に第8回「こいこい松本」を実施 ・開催周知として、広報まつもと、市公式HPに掲載また、各地区公民館、市内小中学校にチラシの設置及びポスターの掲載を依頼	事業開催	1	1	A	参加者の伸び率	C	・天候に恵まれなかったことや、内容に目新しさが見られなかったことから、来場者数は全8回の中で最も少なかった。 ・伸び率66.7%	市民満足度調査	評価できない	※H29市民満足度調査結果が出ないため、2月末現在評価不能	・内容のマンネリ化。今後どのような目標に重点を置き、開催するかが課題。	・原点に立ち返り、参加する実行委員やボランティアスタッフが交流を楽しむことを大切に内容を企画していく。
		70	単独学級講座事業(地域文化・伝統行事分野)の実施と発信方法の見直し 「図書委員会、館報編集委員会他」	○	生涯学習課	・公民館運営委員会、館報編集委員会、体育委員会、文化委員会、図書・視聴覚委員会等の5部門委員会により、住民の公民館活動への参画を担保し、公民館の運営がより良くなるよう検討を図る。	・各地区公民館長により公民館委員を委嘱。H29年度2,994名。 ・2ヶ月に1度公民館報を発行	公民館委員回数	1,140	1,104	B	参加者の伸び率	C	・担い手の高齢化や役員の多忙化等により、委員会参加者数は減少傾向にある。 ・伸び率93.6%	市民満足度調査	評価できない	※H29市民満足度調査結果が出ないため、2月末現在評価不能	・公民館活動の意義の共有が十分とは言えないこと	・各公民館委員会、公民館活動の意義などについて熟慮し、さらなる共有を図る。
4)「くらしの文化」の振興		71	学校サポート事業(郷土学習)の取組みの強化 「郷土に係る学習」	○	生涯学習課	・学校サポート事業は、学校・家庭・地域の連携により、地域の多様な人材とともに地域の子どもを地域で育てるもの。 ・総合的な学習の時間における地域学習などの支援で、地域の多様な人材による学習支援を実施。	・H23年度から全35地区で学校サポート事業を実施。 ・総合的な学習の時間で、地域の学習として地域の歴史や史跡巡り、伝統文化、郷土料理の学習など、地域の方を講師に、各学校のニーズに応じ実施。	学校サポート事業数	230	277	S	参加者の伸び率	A	・昨年度に比べ事業数も増加し、参加者数の伸び率は130.7%となった。引き続き多くの方に参加いただけるよう学校との連携を深め事業の推進を図る。	市民満足度調査	評価できない	※H29市民満足度調査結果が出ないため、2月末現在評価不能	・地域により学校との連携等事業の取組みに温度差がある。	・H30年度から松本版・信州型コミュニティスクール事業と学校サポート事業の予算を統合し、公民館の係わりを深め、地域と学校の熟慮による取組みを推進する。
		72	「地産地消・食育推進事業」	○	農政課	・農業者や食品加工会社で実施する保育園園児・小学校児童を対象とした地元農産物やそれを原料とする加工品の生産過程の体験等を補助金交付により支援し、食や農への関心を高め、地産地消につなげるもの	・13の実施主体による事業実施(+2団体) ・体験児童延べ人数 約8,100人(事業実施団体からの実績報告が揃っていないため、現時点での概算数)	体験児童延べ人数	8,200	8,100	B	参加者の食や農に対する浸透度	B	・参加者に対しては、実体験を通して食や農への理解が進んだとの反響を聞いているため	市民満足度調査	B	・平成24～28年度の市民満足度調査の推移をみると、2.96～3.09の範囲で増減しており、施策実施と市民行動変化とは相関関係があるか判断できないが、毎年中央値を上回る水準となっている。ただし、20代は2.55と低い傾向にあり課題点も見受けられる。	・補助上限額の関係で対象者の希望の受け入れが一部出来ていない。 ・事業の対象となっていない若年層の食育や食生活に対する関心の低下傾向への対応ができていない。 ・食や農への関心の高まりをどう地産地消行動につなげるかという仕掛けがない。	・助上限額の見直し(H30～) ・対象者のすそ野を広げる施策展開や体験型事業から行動につながる仕掛けの検討(H31以後)
		73	伝統文化・技術の体験講座事業 「松本市歴史の里 伝統技術の体験講座」	○	博物館	・松本市歴史の里で、初心者向けの講座として開催し、参加者の伝統技術に対する興味・関心を高めることを目的に、はた織り体験講座・みすず細工体験講座・草木染め体験講座を実施するもの	・はた織り体験講座 4月から11月まで8回開催 ・みすず細工体験講座 5月から10月まで2回開催 ・草木染め体験講座 4月から10月まで3回開催	参加者数	130	125	B	市民意識の変化	A	・多くの市民に参加してもらい、松本の伝統技術を実践してもらうことができた	市民行動の変化	D	・講座の規模が小さく、市民活動に対する影響度合を把握するまでに至っていない。	・市民全体が、地域の伝統技術に対する興味関心を高めるまでには至っていない	・学校教育や社会教育との連携など、新たな実施形態を検討する
5)健康、医療、福祉分野等における文化芸術の活用		74	「ヘルスツーリズム事業」	○	健康産業・企業立地課	・地域資源を活用した健康産業の新しいビジネスモデルの創造を目指し、ヘルスツーリズムの振興を図るもの	・これまでの白湯温泉での実証事業の実績や課題を踏まえ、新たな事業を検討中(H29未実施)	参加者数				松本のイメージの向上	評価できない		生じた付加価値額の伸び率	評価できない	・旅行期間中の健康増進を目的としたツアーは、利用者満足度の担保やコスト(専門職の起用や新規メニューの作成等)の抑制が難しく、商品化に繋がりにくい。	・対象者の検討範囲を高齢者や障害者まで広げるとともに、身体面だけでなく精神面の健康にも焦点を当て、平成30年度に試行ツアーを実施する。	
		75	文化財を巡るウォーキング 「和田ウォークラリー、地域探検ふれあいウォークラリー他」	○	生涯学習課	・地域の文化財等を巡り、ウォーキングを行う。地域の歴史を知るとともに地域住民の交流の場とする。	・H29年度総参加者数:1,929人 ・各地区公民館だより等で周知	ウォーキング事業数	60	57	B	参加者の伸び率	C	・昨年度と比較すると減少傾向であった。 ・伸び率93.4%	市民満足度調査	評価できない	※H29市民満足度調査結果が出ないため、2月末現在評価不能	・参加者の固定化や若い世代の参加が少ないこと。	・ウォーキングを通してさらに子どもたちと地域住民が関わる世代間交流の場としたい。